

全国テニス協通信

新日本スポーツ連盟テニス協会機関紙部
<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/toyofuku/tsushin/>

第13回 全国テニス選手権大会 in 和歌山

全国テニス選手権大会が11月16~18日に和歌山にて開催された。大会2日目の朝方に時雨模様かと心配されたが、すぐに晴れ上がり、それ以外は11月と中旬とは思えない陽気の中、熱戦が繰り広げられた(結果は次ページ以降に)。

その熱戦ぶりは連盟外の人にもうわさとして伝わり、「生で、こんな試合が観戦できてとてもよかった、来たかいがあった」といわせるほどのものでした。

レセプション参加115名、エントリー数合計99ドローと最大の規模の大会であったが、和歌山テニス協のスタッフを中心とした運営で全体を通じて非常にスムーズな運営となった。スタッフの規模・団結ともに最大規模の大会にふさわしく、素晴らしい大会を盛り上げた。

来年は東京での開催が内定した。

男子シングルス】

中本(兵庫)、岡部(静岡)や松井(京都)など、スピード・実力を備えた選手が多く出場したが、結局、決勝は昨年と同じ組み合わせ。春原(埼玉)が木原(神奈川)に雪辱を果たした。春原は一昨年に続いて2度目の全国制覇。

女子シングルス】

決勝は前年度チャンピオンの小田垣(北海道)と廣瀬(滋賀)の対戦になったが、パワーで廣瀬が小田垣を押し切り、初優勝。廣瀬は終始、攻撃的なテニスで他を圧倒した。

男子ダブルス】

峯尾・松本組(滋賀)が早いラウンドから苦戦。結局、この前年度チャンピオンを準決勝で破った輿石・浅井組(埼玉)が制した。優勝経験者を含むペアが、前年度チャンピオンの滋賀を含め、静岡・京都と3ペアもあり、男子ダブルスは早いラウンドから強豪が対戦したこともあり、熱戦が多くの観客を集めた。

女子ダブルス】

堀江・丸井組(京都)が三連覇、四度目の全国制覇。安定感は抜群だが、準決勝・決勝と苦戦した。例年、上位進出の土井・吉秋(北海道)は準決勝で、準優勝した若竹・山本組(大阪)に敗退した。

ミックスダブルス】

1Rから、拮抗したスコアの熱戦が続出したが、混戦を抜け出した原田・鈴木組(兵庫)が制した。

壮年シングルス】

屋代(京都)が危なげなく三連覇。屋代時代が当面続きそうな試合内容だった。準優勝した橋本(大阪)曰く、「壁と戦っているよう・・・」と・・・



左は群馬壮年シングルス代表の長谷田さん

大会優勝者・準優勝者の声

【男子シングルス】



優勝 春原 健一（埼玉）一昨年優勝 左の写真

「つないでつないでいくのがプレースタイル。いろんな人と会えて、対戦できる大会をありがとう。今は26歳ですが、壮年まで出られるように頑張る。」

準優勝 木原 伸行（神奈川）前年度優勝

「苦しい試合をものにした決勝進出は収穫が多い大会。決勝戦は中盤でやってはいけないミスをしてしまった。来年また、予選から、チャレンジ！」

【女子シングルス】



優勝 廣瀬 真由子（滋賀） 左の写真

「はじめて全国大会に出られて、しかも、優勝できて、とってもうれしい。また、頑張る。」

準優勝 小田垣 めぐみ（神奈川）前年度優勝

「今年はレベルが高くて、どの試合もきびしかった。決勝戦のボールも厳しかった。来年は予選から頑張る」

【男子ダブルス】



優勝 輿石・浅井（埼玉） 左の写真

「前回の優勝者に準決勝で勝って、決勝は負けられないプレッシャーがあり、らしくないプレーが出た。最後は集中できた」

準優勝 今村・中山（京都）

「楽しかった。決勝戦はゲームをとれそうで、とれずにいて、最後まで足りなかった」

【女子ダブルス】



優勝 堀江・丸井（京都）三連覇 左の写真

「準決勝は強豪だったので結果を気にせず、思い切りプレーした結果、なんとか勝つことができた。決勝も頑張った」

準優勝 若竹・山本（大阪）

「決勝戦ではリベンジはたせず。風に迷った。大阪予選を勝ち抜くのは大変、でも、また、これのように頑張る」

【ミックスタブルス】



優勝 原田・鈴木（兵庫） 左の写真

楽しかった。優勝できてうれしかった。小学生のようなコメントです。」

準優勝 粉川・大島（大阪）

コメントとれず

【壮年シングルス】



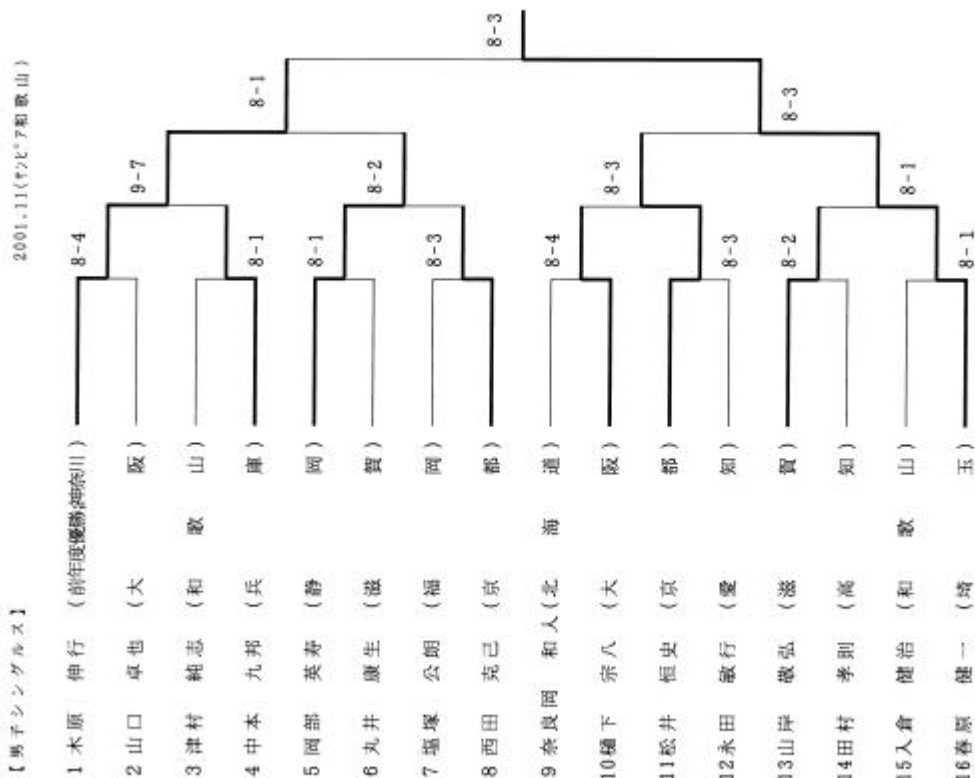
優勝 屋代 春幸（京都）三連覇 左の写真

声援を受けて優勝できて大変うれしい。来年も皆さんに会えるように頑張る。」

準優勝 橋本 庄司（大阪）

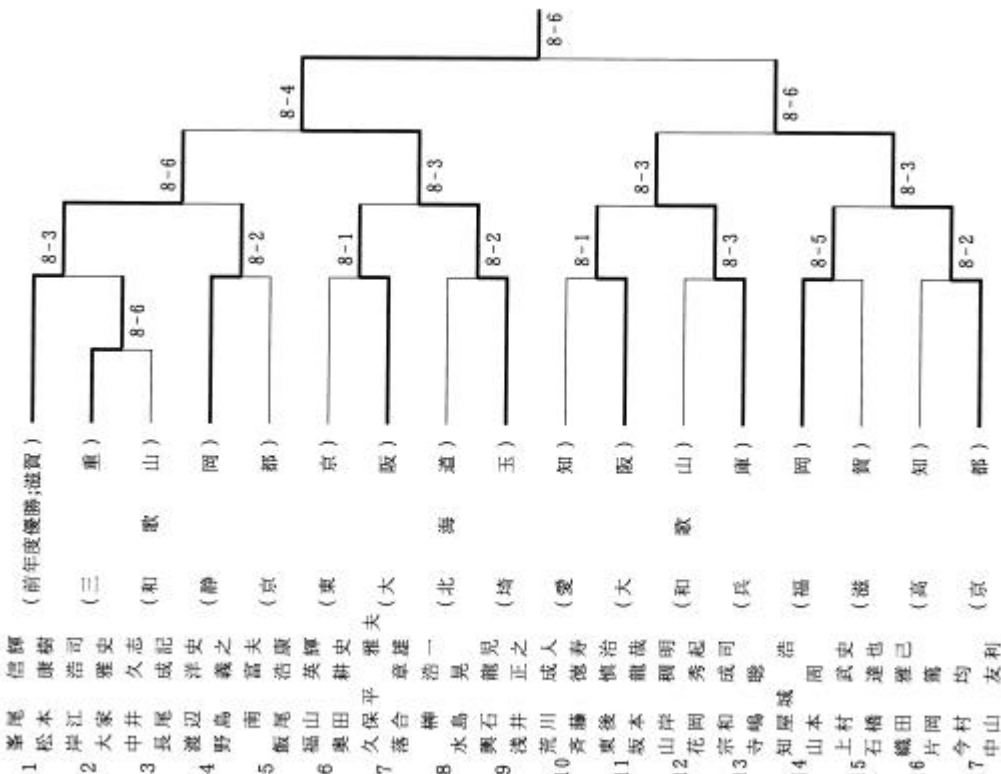
「よく決勝戦まで来た。決勝戦は壁と戦っているような感じだった」

大会結果



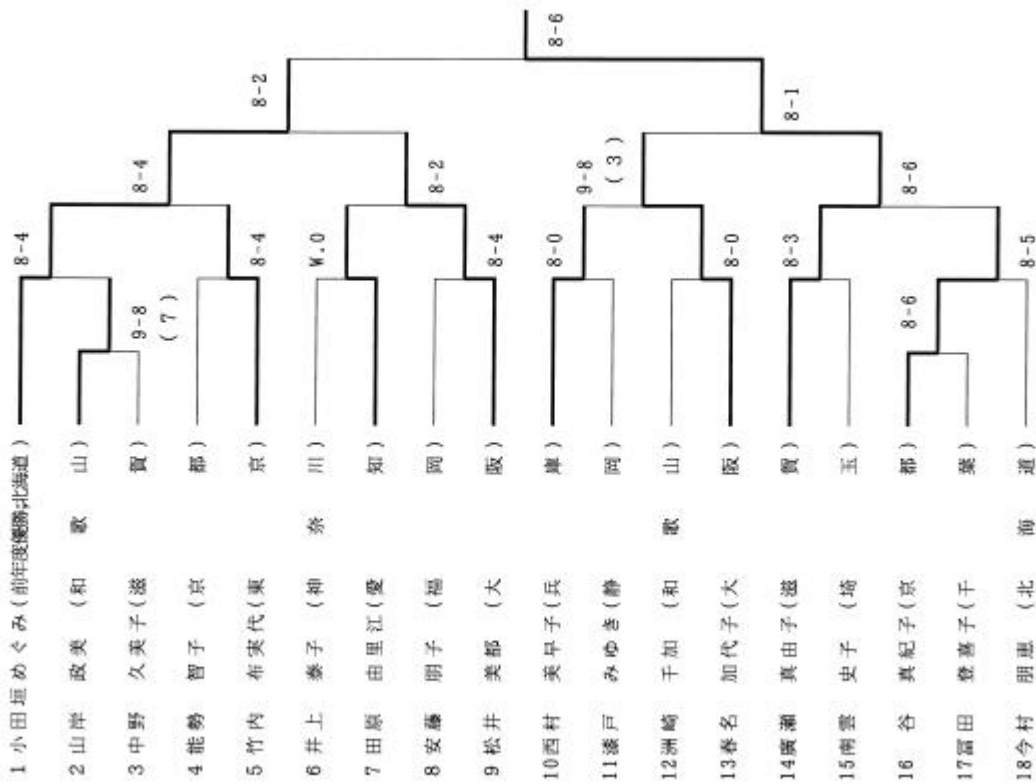
2001.11(728)*7和歌山

【男子ダブルス】



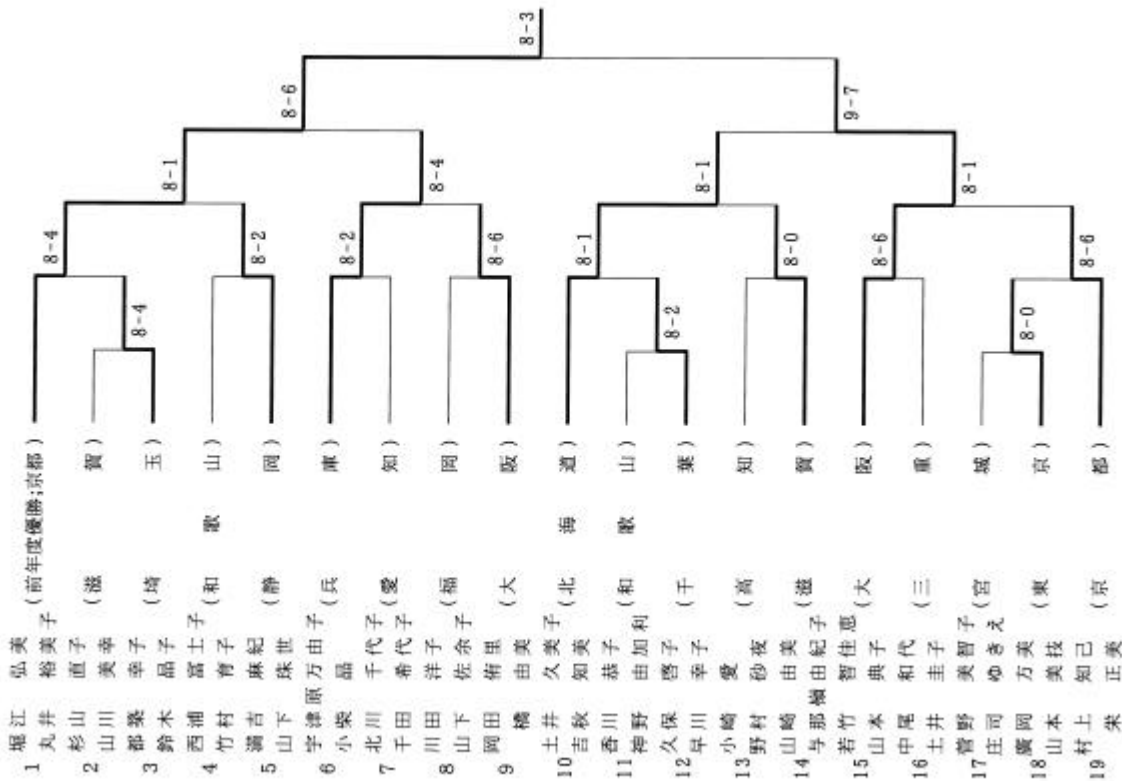
2001.11(728)*7和歌山

【女子シングルス】

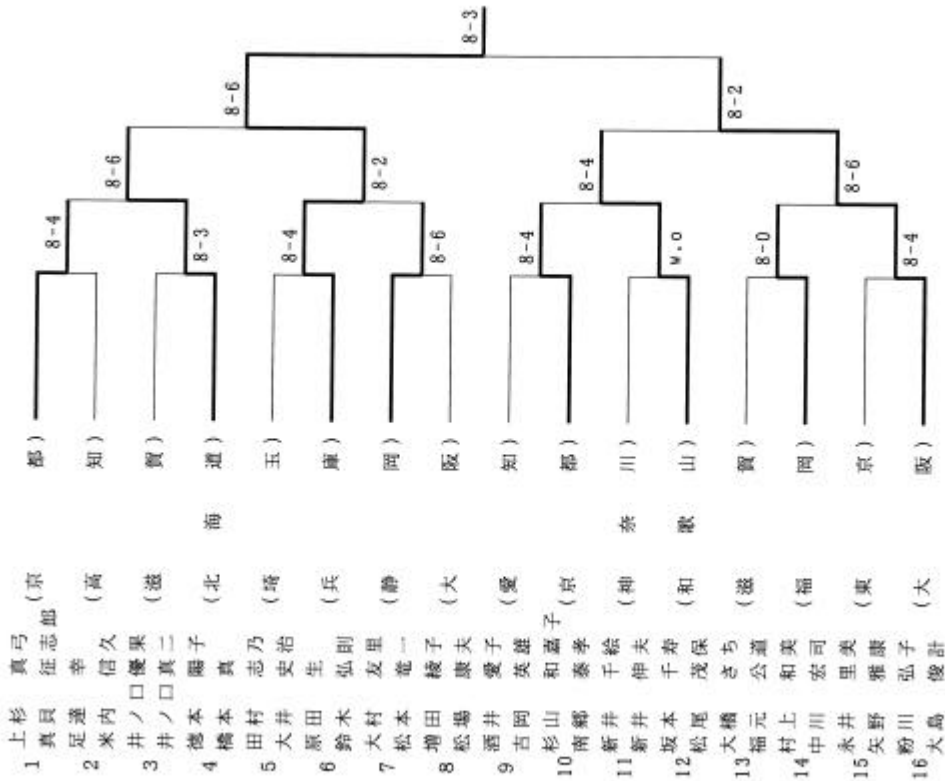


大会結果は <http://web.kyoto-inet.or.jp/people/toyofuku/tsushin/> から参照できます。

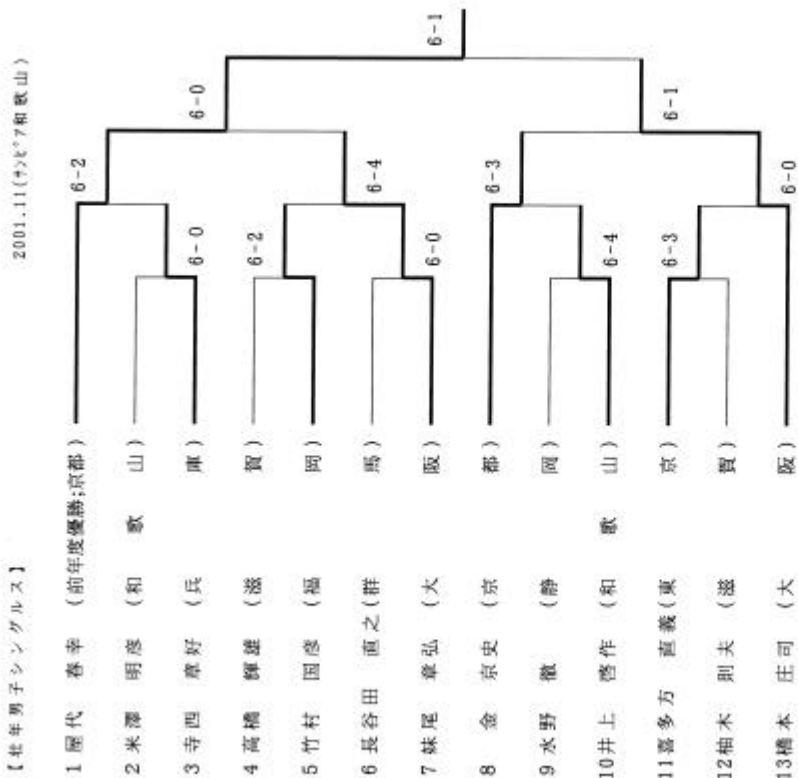
【女子ダブルス】
2001.11(〒2L7和歌山)



【混合ダブルス】
2001.11(〒2L7和歌山)



「スポーツのひろば」を購読しましょう！
購読の申込、問い合わせは各都道府県協(議)会まで。



スタッフ・運営。。。

十分な準備、そして、スタッフのチームワークの良さから、運営副委員長に「今回はのんびりさせてもらっている」と言わさしめた和歌山テニス協のスタッフ。

コート横に設置された受付の様子(左)。朝の受付時間を終え、閑散としたところ。皆さんの視線の先、受付横にはオーダーオブプレーが提示されています。試合の進行が気になるのかな？

この日のための手作りらしき、スコアボード(左下)。よく見ると、市販のクリアケースを用いているように見えます(右下)。アイデアものです。



2002年関西ブロックテニス学校

主催： 新日本スポーツ連盟全国テニス協会

日時： 2002年1月20日(日) 9:30~

場所： 大阪市立千島体育館

〒551-0003 大阪市大正区千島2-7-93 TEL.06-6553-7800

J R又は地下鉄大正駅より市バス大正区役所前 駐車場は有りませんので、車はご遠慮下さい。

参加費： 養成コース ¥12,000-(連盟外¥13,000-) [テキスト、指導法のビデオテープ(VHF)教材を含む]
研修コース ¥9,000-(連盟外¥10,000-)

定員： 30名

参加：	Aコース	テニスリーダー養成	どなたでも参加できます
	Bコース	テニスリーダー研修	新日本スポーツ連盟テニスリーダー有資格者
	Cコース	テクニカルコーチ養成	新日本スポーツ連盟テニスリーダー有資格者
	Dコース	テクニカルコーチ研修	新日本スポーツ連盟テクニカルコーチ有資格者
	Eコース	テニスマネージャー養成	本年度無し
	Fコース	テニスマネージャー研修	新日本スポーツ連盟テニスマネージャー有資格者

講師：	新日本スポーツ連盟全国テニス協議会技術部長	田中靖久
	新日本スポーツ連盟大阪テニス協会理事長	志賀万喜子
	新日本スポーツ連盟大阪テニス協会常任理事	小東喜久次
	新日本スポーツ連盟大阪テニス協会テニスマスター	古見一雄 他

申込： 1月9日(水) 必着

申込用紙に記入の上、参加費を..

<郵便振替> 00940-4-16544

口座名「スポーツ連盟大阪テニス協会」へお振込後

振込受領書(控可)を添えて下記までFax又は普通郵便にてお申込下さい。

〒540-0003 大阪市中央区森ノ宮中央1-16-15 三双ビル2F

新日本スポーツ連盟大阪テニス協会内

関西ブロックテニス学校宛

TEL:06-6945-7676(平日13~17時迄) FAX:06-6942-4753

97年より規定が改正され「2年に1回の研修」を義務付けられております。
全国テニス協会では、「指導員制度からリーダー制度へ」の移行が実施されました。

各地からの便り

北海道 雪の季節の便りが届きました。10月28日の大会を最後に屋外の大会シーズンが終了し、室内大会がスタートしたとのこと。はるきさんの言葉から、寒さが伝わってきます。全国大会の壮行会の案内も。吉秋番長率いる北海道選手団は、女子シングルス準優勝、女子ダブルス3位、ミックスダブルス3位、男子ダブルスコンソレ優勝と今年も活躍。



東京 都立高校のテニス部指導員派遣予算申請が、都の教育委員会に承認され、契約・指導員派遣とあいなりました。やった!。担当指導員談「今、学校のスポーツ活動が問題になっている時、スポーツ連盟の活動に期待されることは意義があると思い引き受けた、新しい活動展開を目指したい」との抱負が掲載されています。ほんとに今後の展開が楽しみです。

サマーキャンプはほぼ定員を確保し、ビデオクリニックも好評で盛況のだったとのこと。(とうきょう テニスニュース チャレンジ&フェアプレー)

板橋 板橋レディースオープントーナメントの開催のお知らせ。でも、んっ、(ミスダブルス)って???ミスは駄目ってことなのですね。全国にはいろんなユニークな大会がまだまだ、うもれていそうです。各地のたよりを編集する楽しみが、ちょっと、増えたような気がしました。

多摩川 PLAY TIMES 10月号では夏合宿の感想。二谷、林コーチが声かれるまで指導された様子が伝わります。PLAY TIMES12月号は『総会&忘年会のお知らせ』『交流大会案内』『合宿の報告』『初打ちの案内』と盛りだくさん。年の瀬を感じます。合宿・・・、お天気の心配があったようですが、千葉の白子はすばらしいテニス日和に恵まれ、潮風とおいしい空気のもとでテニスを満喫できたようです。(PLAY TIMES)

石川 寄せ書きノートより。「勝できてよかった」「今日の目標達成！「打倒 楠木さん」」「初めて参加」「優勝したぁぁぁー」「楽しくプレイさせていただきました」「今日は2勝できました。次回は3勝」などなど、参加者の皆さんがそれぞれの目標で大会に参加されている様子が目に浮かびます。来年はこの中から全国大会参加者がでてくるのかな？(テニスのひろばいしかわ 2001)

京都 どたばたの1年になりそうですが、1年の終わりが見えてきました。「テニスのひろば」では、毎月の定例会



議での議論の要旨が掲載されています。今年度の前半は試合の運営、ドローといったところで苦労した話为中心でしたが、後半は来年度のスケジュール・体制・会計について話の多くなりました。

なんとか、忘年会はおいしいお酒が飲めそうです。

編集後記

全国大会にスタッフとして参加しました。3年前の名古屋、昨年の京都に続いて三度目の参加(コートレフリー or ロービングアンパイア)でしたが、毎回レベルが高くなっていくのを感じます。選手の盛り上がりとともに、まわりの観客の盛り上がりも感じました。

また、それにつれて、1ポイント1ポイントが試合の行方を左右しかねないような緊張感も増してきました。そして、その雰囲気壊さない大会運営側にかかる責任も重くなってきているように感じます。もちろん、これはポジティブな話で、レベルの高い大会を開催できることは大会を運営するものにとっても誇りになります。

今後も選手・大会運営者ともにフェアプレーですばらしい大会が開催されていくことを期待します。

すっかり、スタッフづらしてしまいましたが、スタッフとしてのみならず、プレーヤーとしてかかわっていく気持ちをいっそう強くした今年の全国大会でした。

最後になりましたがお詫びにです。この10月に予定していた2001年第四号を発行することができませんでした。本12月号が第四号になります。この場を借りてお詫び申し上げます。

